

新入会員の紹介

チョコレート革命

張華

わたしは死んでいる
 と言っているわたしがいる
 否定も肯定もしない
 たまねぎを切る
 世界は何も変わらない
 今日の食事がおいしければそれでいい
 あくびをしていても
 外へ出ることもあるだろう
 悲しいと思っているわたしがいる
 雨さえ降らなければ気分がよい
 夢に見たわたし
 わたしの中で眠っている
 運命の糸は何本ある
 わたしは数えようのとして
 後ろをふりむく
 わたしは箱から顔を出し
 あかんべえをしている
 何のことだろう
 今食べているチョコレートだと

来羅 ゆら

闇を泳ぐもの

揺れている魚は
 揺れながら進んでいる
 深海には光がとどかなくて
 漆黒の闇のなか
 たいいていの生き物は
 自ら発光するのだそう
 発光しない魚もいる
 発光しない魚は
 闇の中を
 闇のままで生きていくのだろう
 闇の香り 気配の濃淡 触覚
 自らの命の輪廓を海に任せて
 退化した目をときどき動かしながら
 闇を泳ぐのだろう

今朝の夢とは

先日 夢の中に現れたIさん
 そのIさんから電話があった

(それは私への電話ではなく
 私はそれを取り次いだのである)
 その夢の意味が分からず
 私は次の夢を待っていた

しかし次に際立った夢は来ない
 Iさんはかつての同人誌の編集人である
 どうも私はIさんのことを忘れたくないようである
 彼の最後の作品は「沢津昭八の昭和史」だった

田中信爾

自己紹介

張華(ちようか)

新聞の投稿から始めました。
 大阪文学学校にも行きました。



海、山、人に会いました。
 長い間詩を書いていませんでした。
 何年か前から書くようになりました。
 いつかは誰かの人生を変えるような
 詩を書くのが目標です。
 住所 抹消しています

自己紹介

来羅ゆら(らいら ゆら)

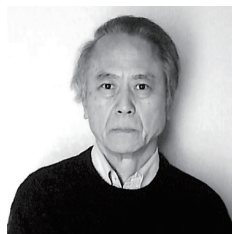
百円玉を握りしめて書店の棚を眺めていた。あの
 日のドキドキを今も覚えています。安価な薄い文庫
 の背文字を追って、見つけたのが室生犀星の『愛の
 詩集』。八拾円でした。中学生が自力で見つけた初め
 ての「愛」でした。

住所 抹消しています

自己紹介

田中信爾(たなかしんじ)

今回再入会させて頂いた田中信爾と申します。私
 は当協会設立当初から入会させて頂いていました。
 詩を始めて間もなくで、少し緊張した記憶がありま
 す。



この度、私の都合により退会后、再入会というこ
 とで、どうかよろしくお願い致します。
 住所 抹消しています

